



第2図 擬似一様乱数データを用いての、標本数と重相関係数との関係についての数値実験結果（黒丸印と曲線、大滝，1976による）、および、第1図bから読み取った結果（×印）比較。ただし、独立変数の数が15の場合。

5. 注 意

(1) 第1図の $k-1=1$ は単相関係数であるが、この場合の第1図の有意限界値 R_0 と、単相関係数の信頼限界を示す図（たとえば、鈴木，1968の288~290ページ）から読み取られる、 $\rho=0$ に対する r （標本単相関係数）の値とは、若干相違する。これは、検定のための両者の仮定が異なるからである。

(2) (1) 式が F -分布するという仮定が成り立つためには、従属変数ならびに残差（従属変数の観測値と、重回帰式による推定値との差）が正規分布することが必要である。この条件が検定上の障害になることは多くないと思うが、一応注意する必要がある（詳しくは、たとえば、奥野ら，1971；鈴木，1975を参照）。

最後に、第2図の原因図を提供して下さった気象庁予報部電計室大滝俊夫博士、貴重なご意見をいただいた気象協会研究所山口勝輔氏、および、計算を手伝って下さった気象協会中央本部村上修氏に厚くお礼申し上げます。

線は、必ず、プロットした点の外側を通るように描かれているから、この包絡線に相当する重相関係数の値は、危険率が0.10またはそれより小さい場合の有意限界値であるとみなすことができよう。

いっぽう、危険率0.05、独立変数の数が15の場合の重相関係数の有意限界値 R_0 を、第1図bから読み取り、第2図にプロットしてみると、これらの値は上述の包絡線に非常に近いことがわかる。

文 献

大滝俊夫，1976：降雨の確率予報の試み，気象庁研究時報，28，267-278。
 奥野忠一，久米 均，芳賀敏郎，吉沢 正，1971：多変量解析法，日科技連出版社，28-29および64-65。
 鈴木栄一，1968：気象統計学，地人書館，81-84。
 ———，1975：環境統計学，環境情報科学センター，9-13。



最近の中国の気象刊行物

新 田 尚

大気科学（中国風には“大气科学”）が、中国科学院大気物理研究所の編集で発刊された（科学出版社発行）。1976年9月に第1号（中国風には“第1期”）が刊行さ

れ、季刊として1977年10月現在、第3号（第3期）まで出ている。第2号から、最後の頁に英文の目次が出ているが、本文はすべて中国語である。だが、数式の多い論

文はかなり類推できる。

次に、第1号から第3号までの主な気象論文を拾って列挙してみる。

第1号

黄河の低気圧に伴った豪雨の解析

3層プリミティブ方程式モデルによる数値予報の第一報

気象衛星による湿度の鉛直分布の遠隔測定

低気圧の発生・発達とそれに伴う豪雨およびそれらの予報の研究

ドップラ・レーダによる境界層の観測

レーザ・レーダ観測の実験的研究

降水に及ぼす爆発の影響の解析

東北地区の冷渦の移動経路の統計予報

第2号

バロトロピック大気中のら旋状のプラネタリー波（著者は巢紀平と葉篤正（Yeh））

ITCZにおける複数台風の同時発達の予備的研究

華南の初夏の雨季における下層ジェットと広東の豪雨
楊子江中流域と下流域における梅雨期間中の豪雨のケース・スタディ

超長波のスケール解析

夏季におけるアジアと西部太平洋の亜熱帯高圧帯における高気圧の動静について

偏西風中の天気系と ITCZ の相互作用についてのエッセー

台風の研究と予報の現状についての総合報告

雹の降下のレーダ観測

低緯度地方に適した解析法の提案

煙とちりがつもった層のライダー観測

第3号

数値予報における実測風の使用

限られた領域でのプリミティブ方程式モデルによる予報のための、ある差分スキームの実験

雨季の期間中の、楊子江中流域と下流域における干ばつと洪水の長期予報および 500 mb 循環パターンとその変化

CO₂ の赤外吸収帯における透過率の計算

ライダーで求めた下層大気の消散係数の鉛直分布
はげしいスコール・ラインのメソ・スケール解析
総観場の分類を考慮した台風進路予報の統計的方法
海洋と大気の大規模な相互作用と長期予報（総合報告）

気候変化の現状についての若干の見解

以上のほかにも、中国の気象学史や Mason の The Physics of Cloud の新版の書評なども掲載されている。

大気科学は年4冊発行で2,800円（1冊700円）である。中国関係の雑誌・書籍を扱う書店ならば、どこでも予約を受け付けている。参考までに内山書店の住所と電話を記しておく。

〒101 東京都千代田区神田神保町1-15（すずらん通り）（株）内山書店

（電話）03-294-0671

* * *

中国科学院大気物理研究所集刊が刊行され始めた。筆者の手許には3冊しかなく、現在何冊発刊されているか、よくわからない。1975年に最初に刊行された模様である。いずれも中国語だけ。

1. 近代気象学の若干の問題の発展（1975年発行）

これには、大気大循環の数値実験、統計予報、熱帯気象学の三つのテーマに関する最近の成果の総合報告が収められている。

2. 統計的天気予報法の研究（1975年発行）

これには、10篇の報告がおさめられており、いろいろな統計的手法による予報技術について、解説兼総合報告がなされている（この号は集刊の第3号となっており、第2号は不明。また、1. で紹介したものには集刊と記されていない）。

3. 雷の観測と雷電の物理的研究

これには、8篇の報告がおさめられており、雷についてのいろいろな角度や方面からの研究を網羅している。

なお、個人購読の場合、この集刊の入手法や価格については現在不明である。上記の中国関係図書専門店では扱っていないようである。